

(別紙4(2))

事業所名: グループホームわかば

目標達成計画

作成日: 令和 3年 11月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束を行う場合、「切迫性」「非代替性」「一時性」の要件を満たし、かつ、それらの要件の確認等の手続きを極めて慎重に実施したケースに限られている。月1回のスタッフ会議で、現状のケースに代替する方法がないのか、最短の期間となっているかなどを検討しているが、身体拘束中止に繋がっていない。	身体拘束をなくす	月1回のスタッフ会議にて身体拘束について検討しているが、この中で更に、身体拘束をなくすために代替案を出し合い実行していく。	12ヶ月
2	36	コロナ禍により外部研修を受ける機会が減少している。年間研修計画の中に現在入っていない接遇マナー研修を、虐待や身体拘束といった必須の研修と共に実施することで、一人一人を更に尊重していけるのではないかと。	接遇マナーを学ぶことで職員のレベルアップを行い、利用者への対応を更によいものにする。	年2回接遇マナー研修をそれぞれのユニットで行う。また、外部研修で受ける機会があればそれを受けた職員は他の職員にも伝えて、全員の接遇レベルが上がるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。